

文書課長  
公信案

別紙

(甲號用紙)

文書課發送一 昭和六年八月五日 發送済

主 亞細亞局長 隨了  
主 (起草昭和六年七月十九日)  
任亞細亞局第二課長 三浦

機密 第七三四 號

昭和六年八月三日 日附

附屬書一通

受信 人名

堀印振 務次 友

發信 人名

永井 功 友

件名 鮮内鮮支人衝突事件ト  
あふあふに於ける鮮支人ノ状  
況ニ関する件

綴 込 名

別紙御参考迄ニ送付ス

(昭和六年七月十六日附) 館來(往) 電機 第四四四號寫及附屬書寫

公信案

外務省

S 1.1.1.0-17 1589

0231

六

機密 第七三四 號

昭和六年七月十六日

在安東

領事 米澤 菊

外務大臣男爵幣原喜重郎 殿

鮮内鮮支人衝突事件ト安東ニ於ける鮮支人ノ状況ニ關スル件

萬寶山事件ニ端ヲ發シ鮮内ニ起ル鮮支人衝突事件ニ關連セル當地ノ情勢ニ付テハ不取敢要領電報ニ置キタル通ナル處委細ハ別紙報告書ニ付テ御了知相成度此致申進ス

在安東日本領事館

S 1.1.1.0-17 1590

0232

本信寫送付先  
公使 北平 奉天 吉林 長春 朝鮮 總督  
關東長官

在安東日本領事館

S 1.1.1.0-17 1591

0233

鮮内中 鮮人衝突事件ト安東ニ於ケル 鮮支人  
状況

(昭和六年七月十一日現在)

萬宝山事件ニ端ヲ發セル平壤其他鮮内各地ニ  
於ケル 鮮支人衝突<sup>事件</sup>種々ノ方法ニテ當地ニモ宣  
傳セラレ平壤管内特ニ對岸新義州ニ於ケル六日  
夜來ノ鮮人暴行事件及鮮地平壤方面ヨリ列車  
ニテ又新義州ヨリ列車 船或ハ徒歩ニテ續々來集  
セル避難民ノ為當地ニ於ケル 鮮支人ノ感情ハ極度  
ニ尖銳化シ特ニ避難中國人等ノ<sup>對</sup>大又ハ想像的  
宣傳ト中國人ニ流シ種々ナル謠言ト相俟ツテ七  
日ニ至リテハ當地ノ雰囲気漸ク陰悪ヲ感セルムモノ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0-17

1592

0234

了ルニ至ル 仍テ中國關係官憲創ニ對シ事態ノ鎮靜  
 ニ付善處方申入ルト共ニ警察官ヲ督勵シ嚴重  
 警戒ニ當ラシムル一方人心ノ安定ニ付各機關ニ於  
 テ百方努カシタル結果大体ニ於テ無事平穩ナルヲ  
 得タリ今右経過ノ大要ヲ摘録スルハ尤ノ如シ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1593

0235

一 避難民ノ状況

六日以來列車ニ依ル中國人避難民現ハルニ至リ  
 同日三六〇人、七日九一五人、八日四一八人、九日二六〇  
 人、十日三〇人ヲ算シ又新義州ヨリ安東ニ避難シ未  
 レルモノ右五日間ヲ通シ約三千名ニ達シタリ此等避  
 難民ハ附屬地或ハ支那街知人宅ニ寄食スル者  
 アリタルモ大部ハ縣長、公安局長、商務會長等  
 協議ノ上徴炭シタル劇場、若動寫真館等ニ收容  
 セラレ一人宛一日賄料現洋十五仙ト定メ其ノ経費  
 ハ總商會ニ於テ臨時負担スルコト、セリ其ノ收容  
 場所及員數次ノ如シ  
 韓境華僑難民第一臨時收容所

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1594

0236

廣濟街丹桂舞台内 約一三〇〇名  
 韓境華僑難民第二臨時收容所  
 永安後街華明舞台内 約六〇〇名  
 全第ニ廣濟街東北電影院内 約四六〇名  
 全第四新安街東平電影院内 約三五〇名  
 全第五新安街東明電影院内 約一七〇名  
 全第六永安後街福慶棧内 約二〇〇名  
 其他  
 總計 約四七〇〇名

本官ノ執リタル措置  
 當地ハ國境タル特殊的地位ニ在ル關係上避難民ハ  
 其ノ列車ニ依ルモノト歩行者タルトヲ向ハス全部一應

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1595 0237

當地ニ踏ミ留モリタル處遠カニ四十人ヲ算スル避難  
 民ノ入り込ミタルハ尤無キタニ動搖シ居ル當地鮮支人  
 算ニ益々不安ノ念ヲ起サシメ流言ハ蜚語ヲ生ミ一般  
 的情勢漸ク陰惡トテテ事態憂慮スヘキモノアハニ至  
 リタルヲ以テ本官ハ不祥事ヲ未前ニ防止セシカ為當地  
 首腦有力者及新義州側ト連絡ヲ執ルト共ニ警察  
 署長ト協議ノ上特ニ警察官ヲ督勵シテ遺漏ナキ  
 警戒取締ニ當ラシメタル外  
 (1) 民國側責任者タル縣長ヲ往訪シ此ノ際特ニ冷  
 靜事ニ當リ民心ヲ安定スルニ付機宜ノ措置ヲ執  
 ランコトヲ要求シ先方ニ於テ我方ト協力シ徹底的  
 且自發的ニ取締ヲ為スノ用意アヒトヲ確メ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1596 0238

四 遼南長ヲ往訪シ舞通行者ニ對シテハ稅兩吏  
 ニ於テ此ノ際最モ慎重ナル態度ヲ執リ苟モ  
 通行者ノ感情ヲ刺戟スルカ如キ行動ヲ避クル  
 ト共ニ逃匿船及江岸迄視員ノ夜向行動ヲ差  
 控フル様諒解ヲ得テ事端ノ發生ヲ防止シ  
 警察署講堂ニ於テ朝鮮人會長外十四名ヲ  
 集メ官民協カシテ時局ニ善處シ國境ノ不安ヲ  
 一掃スル様懇談的警告ヲ為シ中國人側商務  
 會長外十數名ニ對シテモ今様懇談シ朝鮮人  
 會ニハ舞人ニ對シテ輕率ノ盲動ヲ墮シシ衝突ヲ避ク  
 ハキ首ノ傳單ヲモ配布セシメタリ  
 民國側ノ取締状況

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1597 0239

遼寧省政府ハ九日午前安東縣縣長ニ對シ難  
 民ノ取締及我方ニ對スル交渉方次ノ如ク訓令シ  
 来リタル趣ナリ  
 萬宝山事件ハ未解決ニシテ朝鮮各地ニ於  
 テハ誤解セル謠言ニ依リ排華事件擴大シ  
 其ノ結果安東ニ避難シ来タル者ナルニ付  
 適當ノ措置ヲ講シ華人ニ昂憤セシムルコト  
 無ク縣長ハ連ニ日本領事ニ對シ朝鮮當局  
 ノ取締方嚴重交渉(起)シ華僑ヲ安東ニ帶  
 在セシムルハ永久ノ策ニ非ラサルヲ以テ連ニ  
 善後策ヲ講シ結果報告スヘシ云々  
 先是縣長、公安局長、商務會長等當地首腦

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1598 0240

者ハ協議ノ結果避難民ヲ前記ノ通收容シ教  
昂セル彼等ニ對シ縣長及公安局長ハ文々官憲  
ノ取締ニ信賴シ徒ラニ宣傳的謠言ヲ造ルラ  
戒メ面會者ヲ制限スルト共ニ自由ニ外出スルコ  
トヲ禁スル旨演說シテ其ノ懸極ニ務ムルト共ニ  
公安面ハ總動員ヲ行ヒ誠意アル徹底的取締  
ヲ為シ尚人心動搖ノ兆ニ鑑ミ鳳凰城ヨリ軍  
隊一連(約三十名)出動ヲ要求セタリ

四支那街在住ノ内鮮人ノ状況

當地中國街在住ノ内鮮人保護ノ為數名ノ警  
察官ヲ派遣シ保護ノ完全ヲ期シツ、アリタルカ  
漸次中國人間ニ種々ノ流言坐語傳ハリテ空氣

在安東日本領事館

S 1-1-1.0-17

1599

0241

附  
夕刻ニ至ル迄ノ間ニ全部ニ十戸ハ十五名ヲ避難  
セシメタルカ取所附近其他安全地帯ニ在ル  
鮮人四戸ハ止マリ居レリ内地人ハ十五戸アルモ危  
シタル危険状態ナカリシヲ以テ注意ヲ與ヘ置キ  
タルノミニテ其ノ依止ヨリ居レリ

管内各地ノ情况

管内各地ニ散在スル鮮人ノ保護方ニ關シテモ縣  
長ニ申入レタルカ縣長ハ直ニ之ヲ承認シ縣長  
局長ヲ通シ管内各分面ニ對シ鮮人保護方  
ノ命令ヲ發シタリ

在安東日本領事館

S 1-1-1.0-17

1600

0242

鳳凰城

當地ニ於テハ八日ニ至リ學生等ハ舞内ニ於テ  
舞人暴動事件ニ關スル擴大宣傳文ヲ散布  
シタルヲ以テ駐在我警察官ヨリ縣當局ニ對  
シ其ノ取締及舞人保護方ヲ申入レタリ  
○三道取頭

舞人崔成得等十九名ハ舞支人衝突事件  
頻發セルヲ聞知シ身ノ危險ヲ虞レ安東ニ引  
揚ノ途中約百名ノ中國人一行カ包圍シ棍棒  
等ニテ政打暴行ヲ加ヘ農具及風呂敷中ノ衣類  
等ヲ奪取シタルカ公安局長及縣公安分  
局長ヲ以テ逃シ来リ一行中ノ老人及子供八名

在安東日本領事館

0243

S 1.1.1.0 - 17 1601

13

大東溝

ハ行衛不明トナリタル趣ナリシヲ以テ一面中國  
官憲ニ對シ嚴重交渉スルト共ニ直ニ當館警  
察警部補一名並査査五名ヲ現場ニ急派シ  
中國人首謀者四名ヲ同行取調ヘタルモ証據  
不十分ナリシヲ以テ即日釋放シタリ尚行衛不  
明ヲ傳ハレタル者ハ何レモ無事歸宅シ其後  
不穩ノ形勢ナク水上公安分局長及縣公安分  
局長等取締方法ヲ攻究シ夜間交通ヲ禁シ  
タリ

當地ニ於テハ安東ニ於ケル事件ヲ擴大ニ宣傳  
シ居レルモ縣政府ヨリノ命令モアリ駐屯第一團

在安東日本領事館

0244

S 1.1.1.0 - 17 1602

14

第三營第九連ニテハ兵士ノ外出ヲ禁止シ公安分  
 局ニテハ此遣置員ヲ倍加シ警戒ニ務メ表面平  
 穩ナリ

接架樹

駐在警察官ニ於テ事故防止ニ付今地中國  
 官憲ニ交渉シ一方舞農ニ對シテハ慎重ナル態  
 度ヲ持スルヲ指示セル為舞人等ニ於テモ何等  
 動搖ノ形勢ナシ

輯安驛

平安並道ヨリノ情報ニ依リハ楚山對岸地方中  
 國人ハ身々々集合シ同胞ノ報復ヲ欲シ講スヘ  
 シト協議シ動搖ノ兆認メラル、遡ナリ

在安東日本領事館

0245

S 1.1.1.0 - 17 1603

16

六 被害事件

當管内ニ於テハ舞人ク中國人ニ加ヘタル暴行ハ皆  
 無シテ何レモ中國人ヨリ加ヘタル反動的被害事  
 故ノミニシテ七日ヨリ十日迄ノ件數ハ別添事故調  
 表ノ如ク二十六件四十九名ナルカ内、内地人ノ分ハ  
 舞人ト尙違ラレタル結果ナルヘシト認メラル

在安東日本領事館

0246

S 1.1.1.0 - 17 1604





19

(1) 附屬地内事ノ故

附屬地内居住ノ鮮文人ハ、~~誇~~大ノ宣傳ト流言  
 盛語ニ依リ人心揺度ニ動搖シ居タルヲ以テ前記  
 ノ如ク種々ノ方法ヲ講シ取締ノ萬全ヲ期シタ  
 ルカ尚鮮人等ハ流言ノ盛ナル為ニ極メテ少部  
 ナルモ或ハ避難準備ヲ為シ或ハ棍棒ヲ準備  
 シ襲撃ニ備フルモノアリテ事態頗ル險悪ニ陥  
 リ七日ノ如キハ各所ニハ競合ヲ演シ殊ニ附屬地  
 境界附近各通路ハ空氣最モ險悪ニシテ一時ハ  
 數百名ノ「モツグ」集合相對峙シタルコトアリ右ニ對  
 シテハ直ニ全署員ノ非常召集ヲ行ヒ中日官憲  
 協力シテ取締ニ努メタル結果事ヲ了ラ得タルカ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1608

0250

18

通計	計	〃	〃	〃	計	〃	〃
ニ六件	四	一	一	一	八	一	一
		〃	〃	〃	暴行		〃
		支那街	〃	〃	附屬地		支那街
		五	三	五	五		二〇〇
四九	四	一	一	一	二	二	二
一五							
一五							

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1607

0249

特ニ夜向ハ早寝ヲ倦憩シ通行ヲモ制限スル等  
 極カ事故ノ防止ニ努カセリ八日ハ降雨ノ為  
 極メテ平靜ニ各區ニ事故ノ發生ハ僅カ一  
 件ニ止リ其ノ後日ヲ各ルニ從ヒ人心漸次安  
 定ニ赴キタルカ尚中國人中鉄棒及棍棒  
 フ所持シ居ル者アルコトヲ聞知シタルヲ以テ  
 附屬地内日ノ出製材所其他數ヶ所ノ  
 苦カ宿舍五ヶ所ノ家宅搜索ヲ為シ夫々棍  
 棒ヲ領置シタリ尚各個ノ發生事故ハ次ノ  
 如ク小事件ニシテ何レモ大事ニ至ラザリキ  
 一七日午前十時五十分頃大知橋通米出所  
 附近ニ於テ支那人ヨリ毆打セラレタル一鮮人アリ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1609 0251

タルカ鮮人ハ直ニ逃走セルモ日文境界附  
 近ノ為鮮文人數百名集合シ來リ双方相對  
 シテ追散セス事態漸ク重大化セントシタルヲ  
 以テ非常召集ノ上多數ノ警官ヲ急派シ之ヲ  
 追散事ナキヲ得タリ

二安東縣下川端町警署ニ三一號

張 用 亭 當三十四年

右ハ七日午後〇時五十分頃七道溝通行中  
 數名ノ支那人ノ為ニ毆打セラレタルカ該支那人  
 ハ直ニ逃走セリ

三義州郡古城面麻田洞

金 相 鉉 當四十年

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1610 0252

REEL No. A-0064

アジア歴史資料センター

23

右一週向ヲ要スル頁傷ヲナセリ  
 六住并安東驛六道溝南一条通三丁目

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1612

0254

22

右ハ七道溝ニ向フ金中午後一時四十分頃驛  
 前橋上ニ於テ數名ノ支那人ニ毆打セラレ頭部  
 其他輕傷ヲ受ケタリ  
 四安東驛六番通八丁目四番地  
 金 章 裕 當五十二年  
 右ハ午後八時頃六番通九丁目三番地ニ於テ  
 數名ノ支那人ニ毆打セラレ頭部其他ニ右療  
 約一週向ヲ要スル裂傷又ハ打撲傷ヲ受ケタリ  
 五安東驛五番通九丁目四番地  
 金 兼 瑞 當三十八年  
 右ハ午後八時頃大和橋通九丁目金岩園前ヲ  
 通行中數名ノ支那人ニ毆打セラレ頭部ニ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1611

0253

無職 金 時 鎮 當三十二年

右者九日午前九時三十分市内四番通九丁目  
通行中突然背後より支那人ニ毆打セラレ  
續ヒテ他ノ支那人ヨリ所持ノ雨傘ヲ奪取セラレ  
テ之レヲ以テ毆打セラレタリ

七平安北道義州郡北下洞居住

舞人 張 重 義 當五十九年

外ニ名

右ハ九日午前九時頃市内上川端町ニ鶏卵  
買出ニ来レル處突然支那人數名、為毆打  
セラレ打撲傷ヲ受ケタリ

八九日午後一時十分頃六道溝小学校ヨリ歸宅

在安東日本領事館

BII 0255

S 1.1.1.0 - 17 1613

ノ金ニアリ一舞人現童カ電燈營業所附近  
ニ於テ支那人ニ毆打セラレタリ  
八九日夜ヨリ十日午後四時迄ニ至ル間ニ於テ數名  
ノ舞人支那人ノ為暴行ヲ加ヘラレタルモノ附  
屬地内七件見モ何シモ傷害ノ程度ニ至ラサル程  
度ナリ之等ハ何シモ突発的ニ加ヘラレタルモノニシ  
テ計畫的ノモノニ非ス

中國街發生事故

一位所義州郡古城面加里洞

白 泉 敬

當四十一年

在安東日本領事館

BII 0256

S 1.1.1.0 - 17 1614

住前 全上

張 往 煥 當五十年

右西名ハ七月七日午後〇時四十分頃苗市街新市街(小益見街)附近通行中ノ百名位ノ支那人暴民ニ包圍サレ頭部持部等ニ右療一週向ヲ要スル裂傷打撲傷ヲ負ヒ支那官憲ノ保護ニ依リ附屬地内ニ送リ恭誠堂醫院ニテ治療ヲ受ク

ニ住所 平並義卅郡卅内面西湖洞五八四

朴 奉 珍 當三十一年

右者ハ七月七日午前上時三十分頃苗市街野菜市場門前通行中支那人暴民ニ三百名ニ包圍毆打サレ治療一週向ヲ要スル右ノ上脛腫脹ヲ負ヒ恭

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1615

0257

誠堂醫院ニ治療ヲ受ク

三住所 平並義卅郡彌勒洞七番地

徐 道 俊 當三十六年

右ハ七月七日午後〇時三十分頃苗市街金場街施醫院前ヲ友人金永根ト公道通行中支那人暴民ニ百名位ニ包圍サレ金永根ハ逸早ク附屬地内ニ逃走難ヲ避ケ得ラレタルカ本名ハ頭部背部脛部等ニ治療三週向位ヲ要スル裂傷打撲傷ヲ負ヒ成田病院ニ入院加療

四住所 安東縣三番通七丁目一番地

右者ハ七月七日午後一時頃苗市街怡隆洋行

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1616

0258

倉庫前五岸一舢板ヨリ上陸シタル處ヲ支那人  
 群衆約百余名ニ包圍毆打サレ頭部其他ニ右瘰  
 約一週向ヲ要スル裂打撲傷ヲ負ヒ恭誠堂醫院  
 ニ於テ治療ヲ受ク  
 五住所 安東縣城副南通八丁目ニ番地  
 金 道 順 當二十六年  
 右者七月七日商用ノ為苗市街、新安街、天成街  
 ニ赴キ今日午前十一時頃用ヲ齊メセ歸金ニ就ク  
 ヘシ今店ノ内前ニ立出テタルヲ無數ノ支那人群衆  
 ニ包圍サレ全身ニ右瘰一週向ヲ要スル打撲傷  
 ラ受ケタリ  
 六位所 安東縣六道溝

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1617 0259

李 翠 龍 當四十六年  
 全 上 李 成 柳 當二十六年  
 全 上 李 承 德 當二十年  
 右三名ハ農耕ノ歸途七月七日午後四時頃六  
 道溝支那公安局前ヲ通行中突然五六十名  
 ノ支那暴民ニ包圍サレ毆打ヲ受ケ李翠龍  
 ハ背部ヲ強打サレ肺出血ヲ来シ治療約三  
 週向ヲ要スル負傷シ李成柳、李承德ノ二名  
 ハ頭部ニ治療一週向ヲ要スル裂傷ヲ他ニ全  
 身ニ打撲傷ヲ負ヒ恭誠堂醫院ニ於テ治療  
 ラ受ク  
 七住所 苗市街九道溝

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1618 0260

文時 弘 當十九年  
 住所 苗市街九道溝文信柳妻  
 朴 氏 當四十年  
 住所 平並義州郡枇岷面草亭洞  
 當時苗市街九道溝文信柳方未遊中  
 文 孝 柳 當四十四年  
 右三名ハ本月七日午後五時頃自宅内前ニ於テ  
 支那人暴民約百余名ノ襲撃ヲ受テ共ニ頭部  
 其他全身ニ裂傷打撲傷治療一週向ヲ要ス  
 ルヲ負ヒ成田病院ニ入院加療  
 ハ中國側九道溝(六戸)及京坎子(四戸)ニ於  
 テル居住鮮人ハ我警察署ノ注意ニ依リ形勢

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1619

0261

ニ留意シ居タルカ午後五時頃ニ至ルヤ突然支  
 那人ニ包圍サレ暴行ヲ受テムトシタルカ此警  
 ノ阻止ニ依リ一戸ノ窓ヲ破壊セル程度ニテ止  
 タリ  
 九平並鉄山郡車輦館東武洞五七船夫李  
 昌振當三十八年ハ八日午前九時頃中ノ島  
 リ支那町ニ上陸シ小偷兇街附近通行中  
 支那人四十名位ノ包圍ニ依リ暴行ヲ受テ  
 着衣ヲ破ラレタルモ身体ハ傷害ノ程度ニ至  
 ラサル微傷ナリ  
 七 民 國 創 ノ 輿 論  
 當地中國官憲ハ我方ノ要求ニ依リ事態ノ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1620

0262



宣文化ヲ防止スルニ付最善ノ努力ヲ約シ誠意  
 警戒ニ任シタルノミナラス一方省政府ヨリハ當地  
 縣當局ニ對シ徹底的取締ヲ命ジ以テ外交  
 交渉上我方ニ口實ヲ與フルコトヲラシメント努ムル  
 アリ縣政府ヲ初メ公署、總商會等何レモ  
 嚴重ナル取締ヲ為シ避難民等ハ激昂シテ  
 宣傳的演説ヲ試シ盛ニ流言蜚語ヲ流布シ  
 セントシタルモ官憲ノ制止宣シキヲ得テ特ニ鎮  
 諭ヲ發即セシムルコト無ク新聞及傳ニ排日  
 宣傳ノ急先鋒トナル外交協會ノ如キモ寧テ口  
 舌辭ノ態度ヲ持シタリ  
 外交後援會ノ宣傳文

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1621 0263

安東國民外交協會ハ八日午前九時事項ヲ決  
 議シ長官公署其他各要路ニ通電セル趣ナリ  
 一 人民ノ激憤ヲ抑サ、韓民ノ如キ非法ヲ撲メサル  
 コト  
 二 輕卒ノ擴大宣傳ヲ禁シ事實ヲ根據トスヘシ  
 三 事件ノ詳細ヲ全國ニ通告ス  
 四 省當局ニ報告シテ何分ノ指示ヲ仰ク  
 五 派員シテ避難民ヲ慰向ス  
 六 事件ノ全蓋ヲ調査ス  
 七 當方ノ主張莫ク省協會ニ向合ハス  
 八 當局ニ現地派遣、慘狀損害ノ調査方ヲ依  
 頼、尚同協會ハ十日九時要旨ノ宣言書ヲ市

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1622 0264

ヲ忍ヒ和平奮闘ノ精神ニ基キ意識理法ノ對策ヲ講シ私憤ノ報復ヲ逞フニテ逆宣傳ノ口實ヲ與フル勿レ一面嚴重交渉ニテ同胞ノ損失賠償ヲ要ホスト共ニ他方擴大宣傳ニテ公理ヲ援助シ絶對ニ和平奮闘ニテ無理暴行ヲ制止シ得ヘキヲ信スヘシ我同胞ニ望ム此ノ事件ニ對シテハ計画的忍耐ヲ為スヘシ

安東國民外交後援會啓

（四）漢字新聞論綱

九日東邊商工日報ハ「國人注意スヘキ萬宝山暴行ナル社説ヲ掲ケ大要尤ノ如ク論シタリ

日本當局ハ積極政策ヲトリ萬案ハ偶々其ノ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1624

0266

内各戸ニ配布シタリ

鮮人暴動事件ニ關シ我同胞ニ報告ス

和平奮闘ノ精神ニ基キ意識理法ノ對策ヲ講

セヨ

萬宝山鮮人墾壕事件ノ内容及其ノ交渉至極ニ痛シテハ夙ニ全世界ニ宣傳セラル、處ニシテ我當局ハ理ニ據リカ辛シ惡感ヲ萌滅センコトヲ期シツ、アリタルニ朝鮮各地人民ハ我在留同胞ヲ傷亡掠奪シ無理暴行ヲ極メタリ此種公法及公理ヲ顧ミサル行為カ人道昌盛ノ今日特ニ中日兩國ノ親善ヲ提倡サル、時ニ甚生シタルハ實ニ不幸ナリ我同胞及市内同胞ハ宜シク努力鎮靜シ一時ノ痛

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1623

0265

一出現ニ過キサリナリ萬里山ニ於ケル我方ノ理  
 由アル制止ニ反シ日本ハ公理ヲ顧ミサルノミテ  
 ラス京城、仁川等ノ鮮人ニモ激動ヲ興ヘ新義  
 卅等各處ヨリ既ニ二千人以上ノ避難民来リ  
 形勢極端ナラサルヲ以テ茲ニ一言無キ能ハス  
 (一)萬里山事件ノ如キニ籍口シテ鮮民ノ暴行ヲ  
 利用スルニ非ス經濟絶交ハ西國ノ福知ニ非サル  
 ナリ  
 (二)鮮支人ハ何レモ被壓直民族ナリ鮮人假令勝利  
 ヲ得ルモ何等益スル所ナク況レテ支邦ニ於ケル鮮  
 人ハ朝鮮ニ於ケル華人ヨリ多シ萬里山ハ正式交  
 渉ニテ公平解決スヘク何ヲ以テ相互ニ政辱センヤ

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1625

0267

宜シク萬里山ヲ明確ニ披露シ真相ヲ明カニシテ  
 再ヒ斯ル不祥事無キヲ期スヘシ  
 (三)國人外交ノ侵擾トナリテ嚴重交渉スヘク日本側  
 ニ於テ以後暴行セサルニトテ保証スルニ於テハ未  
 安中ノ避難民ハ鮮地ニ護送スヘシ  
 尚避難民ノ語ル所ニ依リハ朝鮮ニテハ中國某  
 處ニ於テ鮮人若干名殺害セラレタル如ク宣傳  
 セラレ居ルモ其ノ實一人モ死者ナキニ付適當ノ方  
 法ニテ真相ヲ明ニスルヲ要ス云々  
 尙日紙ハ十一日「九萬ノ同胞飛電急ヲ告ク  
 人心未タ死セズ此ノ危急ヲ救フヘシ」ナル見出  
 ノ下ニ本月四日ノ京城ニ於ケル鮮人襲撃事

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1626

0268

件ヲ名要略ニ通告セル原文ヲ元記ノ如ク掲載  
 セリ  
 吉林萬全山事件ニ關シ朝鮮新聞カ邦外ヲ交  
 シテ中國官民舞人ヲ襲撃シ形勢危急ナリ  
 云々ト針小棒大ニ報ノ尊シテ群集ヲ激動シタ  
 ルヲ以テ七月二日大暴動ヲ起シ總領事ヲ總督  
 府ニ交送シタルモ其ノ効ナク三日仁川中國人街  
 以外居住ノ華人商店ハ悉ク搗毀セラレ同胞ノ  
 死者十餘人傷者無數ニシテ慘状名状スヘカラ  
 ス四日京城舞人ハ三千餘名叫合シテ西小門  
 街ヲ包圍襲撃シ市内華商ハ完全ニ閉鎖シ  
 邊碑ノ華農飲食店等ハ悉ク政辱セラレ商

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1627

0269

品一空ニ歸シ建物紛碎セラレ死者枕ヲ並ニ傷  
 者危ニ瀕シ現ニ總領事館ニ集リタルモノ四千  
 余人食糧缺乏シ奄々死ヲ待ツノミナリ平壤  
 鎮南浦等ノ華商亦搗毀セラレ死者二百余  
 人屍骨暴露シ慘血淋漓損害數百萬ニ達ス  
 元山、祥山、海州各處ノ暴動亦凶烈ニシテ損  
 害大ナリ華人ノ書信ハ嚴重ニ検査セラレテ消息  
 通セス故ヲホハルニ内ナク九萬同胞ハ唯疾ヲ吞  
 テ死ヲ待ツノミ人心未タ死セス血氣猶存ス我  
 各界同胞ノ危急ヲ体念シ共ニ挽救ヲ謀ラン  
 ニトヲ乞フ

九萬同胞咽喉同印

在安東日本領事館

S 1.1.1.0 - 17 1628

0270

文書課長 永井

公 信 案

文書課發送

昭和六年八月廿壹日發送済

淨書 正(原稿) 月十七日

別紙

(甲號用紙)

主 管 亞細亞局長

主 任 亞細亞局第二課長

亞二機密第一

昭和

昭和六年八月廿日

附

附屬書

通

受信 招務者

人名 堀切次官

發信 永井次官

件名 在吉林不逞鮮人、沈没及親日  
鮮人暗殺計劃之關係件

名 込 綴

別紙御參考迄ニ送付ス

(昭和六年八月五日附 亞細亞局長館來(往來 電機 留第127之號寫及附屬書)

公 信 案

外 務 省

S 1.1.1.0 - 17 1629

20 30 0271